

大規模な地すべりを未然に防ぐ努力が着々と実を結んでいます。

大地のすべる動きを止めています。

■地すべり対策

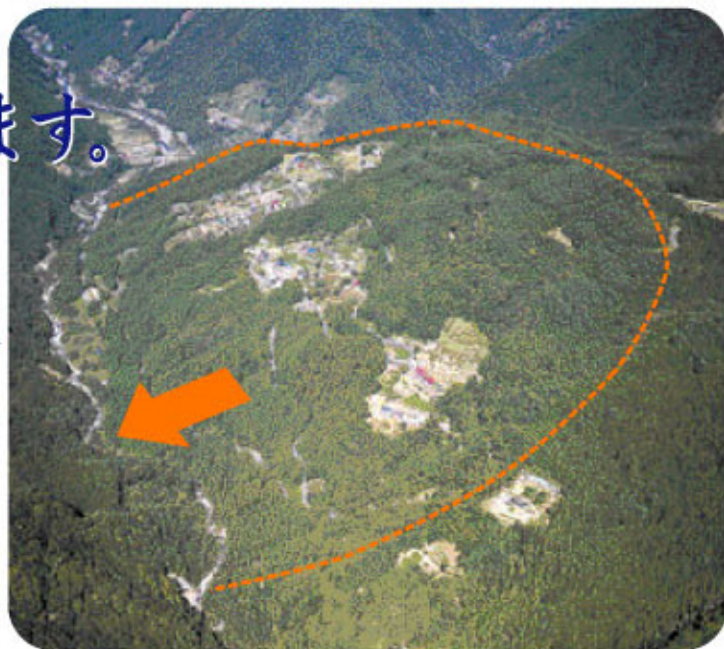
地すべりとは、山の斜面部分が大規模にゆっくりと動き出す現象です。天竜川上流域における地すべりは、中央構造線などの断層上やその付近で起きており、降雨や地震がきっかけで発生する場合があります。天竜川上流河川事務所では、大鹿村入谷地区や南信濃村此田地区において、地すべり対策を行っています。

■地すべり発生のしくみ

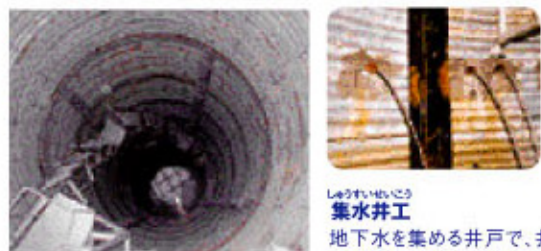
水を通しにくい安定した層の上にある粘土層に地下水が溜まると、水の圧力によって上部の層が持ち上げられ、ゆっくりと動き始めます。

■地すべりへの対策

地すべりの原因となる地下水を取り除いたり、すべっている地層を大規模な杭やアンカーで止めます。

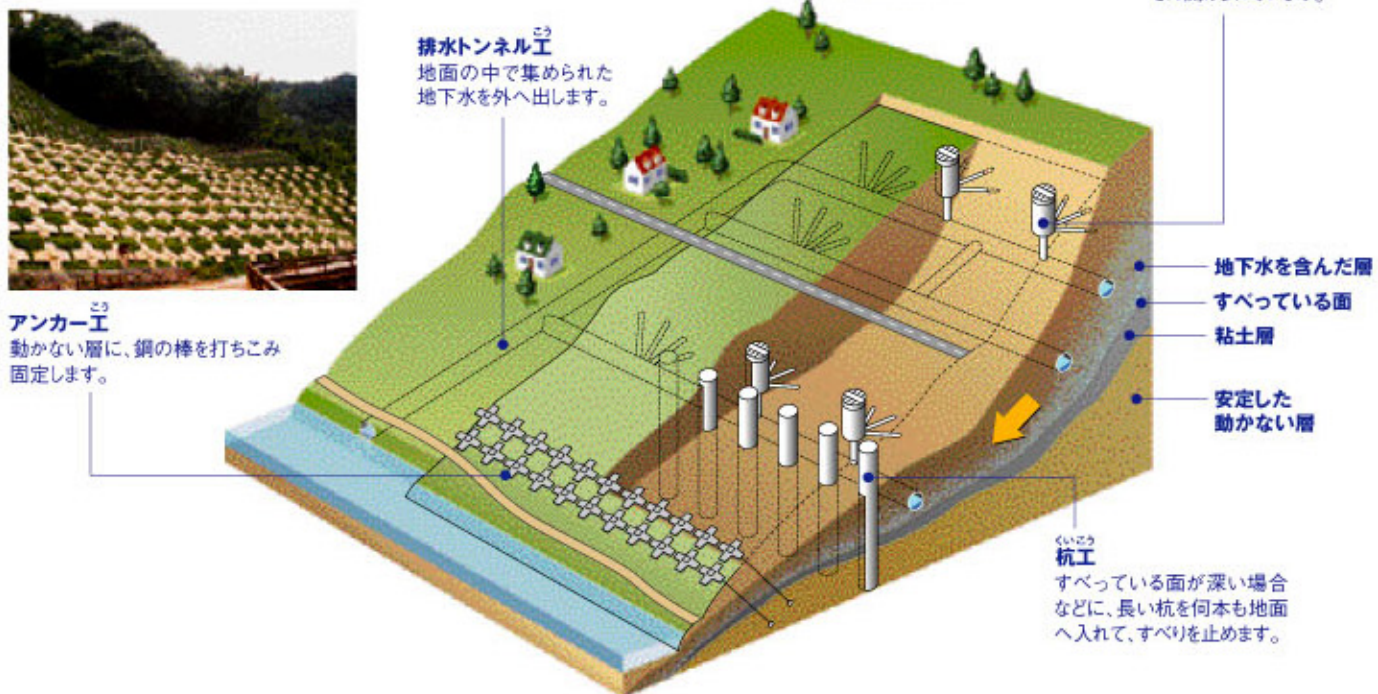


此田地区(遠山川流域)
ここは、およそ南北方向最大1,200m、水平距離800m、高さ300mの山の斜面が地すべり地となっています。この地すべり地やその下流には、多くの集落や国道があります。



集水井工内部
集水井工
地下水を集める井戸で、井戸の壁に水を集める穴がたくさん開けられています。

地すべりの発生とその対策



被害を最小限に抑えるため、ソフト、ハードの両面で防災体制を整備しています。

伊那谷の安全を24時間見守っています。

■監視・観測

水害や土砂災害などの被害を最小限に抑えるため、監視カメラや通信衛星、光ファイバーなどを利用したさまざまな観測システムを整備し、伊那谷を24時間見守っています。雨量や水位の観測所でリアルタイムに情報を収集し、洪水の予測を行う「河川情報システム」、土石流の発生をワイヤーセンサーで検知する「土石流監視システム」、GPSを使った「地すべり自動観測システム」などがあります。



河川情報システム
光ファイバーで遠隔監視

川の情報をリアルタイムで提供します。

■防災情報の発信

災害の被害を最小限に抑え、的確な対応を行うためには、雨量や水位などを正確に伝えることも大切です。インターネットなどで素早く情報を提供するほか、県や市町村など関係機関とも連携し、災害時にスムーズに水防活動が行えるよう連絡体制を整えています。国土交通省 川の防災情報 [インターネット] <http://www.river.go.jp/> [iモード] <http://i.river.go.jp/>

防災に役立つデータを公表しています。

■事前の備え

大規模な洪水が発生し、堤防の決壊や川の水があふれた場合の浸水想定区域を公表し、市町村での避難計画などの立案を支援しています。

災害発生時に、素早く対応します。

■災害対策車両

災害発生時に被害を少なくするためのさまざまな車両を配備し、いざというときに備えています。災害現場で素早かつ的確に指揮を行うための「対策本部車」、住宅や田畑などにあふれた水を排水する「排水ポンプ車」、被害状況把握のため、現場の映像を素早く伝達する「衛星通信車」、夜間の作業を可能にする「照明車」などがあります。



照明車

排水ポンプ車